

町民参加の町史づくり



1999.3.31(水)

第15号



竹富町史編集室

沖縄県石垣市字大川10番地
TEL・FAX兼用 (09808) 2-9985

目 次

第14回町史編集委員会開催	1												
『竹富町史編集委員会トピック』													
新城島（上地、下地）史跡巡見													
沖縄県地域史資料展													
琉球王府時代の古文書を購入													
八重山地域史協議会研修会													
竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」編集要領	3												
竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書翻刻要項	4												
竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書収録要項	5												
竹富町史第十一巻資料編「新聞集成Ⅳ・V」編集要項	3												
『古文書紹介』	2												
開墾之義ニ付願	2												
『写真にみるわが町』	1												
古見の十五夜綱引き	1												
『聖地めぐり』	1												
阿底御嶽	1												
『文化財探訪』	1												
鳩間中森	1												
『新聞で知る町の今昔』	1												
西表島森林での米軍演習	1												
収蔵図書紹介	1												
業務日誌	1												
編集後記	1												
23 20 17 16	15	14	13	11	9	7	5	4	3	3	2	2	1

•表紙の写真•

沖縄県の学校給食は、1947年（昭和22）にララ物資の支給に伴う、一部の学校でのミルク給食に始まる。その後、リバック物資に替わり、1960年（同35）にはパン給食も開始された。竹富町の学校も同様だった。ミルクを飲み、パンを頬張る子供たち。1963年（同38）頃の黒島小学校での給食の光景である。カメラを意識したのか、視線を集中する児童ら。給食は楽しい時間だった。

第14回町史編集委員会を開催

委員20人に委嘱状を交付

竹富町史編集委員会の委員任期満了に伴う委嘱状交付式及び第十四回編集委員会が一月三十日、町史編集室会議室で開かれました。委嘱状は西島本進町長から二十人の委員に手渡されました。

委嘱状交付の後、西島本町長は「本町には先人の残した貴重な歴史、文化が残っています。先生方の卓識を賜り、創造性を願っています。先生方の卓識を賜り、創造性を願っています」とあいさつ、各委員へ協力を求めました。

第十四回編集委員会では竹富町史第1巻資料編「近代」の発刊、編集計画を見なおす今後の町史発刊、船浮要塞の実態を知るうえで貴重な「鉄田義司日記」の発刊など、四件について審議が行われました。町史十巻資料編「近代」については古文書翻刻要項、収録要項を審議、さらに

現在取り組んでいる、近代文書の翻刻の進捗状況が報告されました。

町史発刊計画の見直しについては、明治中期から昭和戦前までの沖縄本島及び八重山で発行された新聞の記事を収録した「新聞集成I、II、III」に引き続き、終戦直後から本土復帰までの八重山で発行された新聞の記事を収録する「新聞集成IV、V」を発刊しよう、というもので編集委員会から発刊の承認を得ました。

昭和戦後編となる「新聞集成IV、V」は現在、記事の探索作業が進められています。記事は最終的に七新聞から一万点を超えそうです。「新聞集成」には精選した記事を収録します。

竹富町史編集委員会	
◎印は委員長	※印は新任
○印は副委員長	
○本成 善康（元八重山教育事務所所長）	
○西里 喜行（琉球大学教授）	○印は副委員長
○加治工真市（県立芸術大学教授）	
○小濱光次郎（元泊高校校長）	
○西島 信昇（琉球大学名譽教授）	
○黒島 精耕（前石垣中学校校長）	
○三木 健（琉球新報常務取締役）	
○玉城 功一（前八重山商工高校教諭）	
○石垣 久雄（八重山高校校長）	
○※當山 善堂（県企画開発部参事監）	
○新本 光孝（琉球大学教授）	
○山盛 直（琉球大学名譽教授）	
○阿佐伊孫良（沖縄ツーリスト石垣支店長）	
○上江洲儀正（南山舎代表）	
○登野原 武（前竹富町教育長）	
○里井 洋一（琉球大学助教授）	
○池城 安伸（前登野城小学校校長）	
○石垣 金星（元竹富町教育委員）	
○大仲 康文（竹富町教育長）	
○安里 碩八（竹富町史編集室長）	

新城島（上地、下地）史跡巡覧



上地島、下地島の史跡を巡覧（下地島）

史編集委員会に引き続き、午後から実施された企画で、晴天の広がる絶好の巡見日和。実のり多い史跡めぐりでした。

編集委員会終了後、編集委員らはチャ

ターした有安栄観光の高速船に乗り込み、午後一時に一路、最初の巡見地である下地島に向いました。島は牧場が一面に広がり、海岸線には亜熱帯常緑樹の大木が繁茂していました。

島では講師の野底宗吉さんの説明をもとに、下地東御嶽、はんぞう御嶽、大原小中学校下地分校跡、下地神やどる御嶽中森の火番岡、まいばらや御嶽、ななぞう御嶽、下地西御嶽を見学しました。

途中、近世期の村跡である伝アラスク村遺跡、伝フカバレー村遺跡などを眺望し、説明に耳を傾けました。ななぞう御嶽ではジュゴンの骨を見て、編集委員一同感動しました。

上地島では安里真幸さんを講師に上地美御嶽、タカニク遺跡、イショウ御嶽、インチケーの墓、クイヌバナを見学しました。また砂浜を歩き、海岸からボンヤマー遺跡の説明も受けました。第十四回町

沖縄県地域史資料展

那覇市民ギャラリーで開催

「第四回沖縄県地域史まつり」と題した沖縄県地域史協議会（仲原弘哲代表）の県地域史資料展が、昨年十二月一日から六日まで那覇市民ギャラリーで開催されました。

同展は沖縄協が結成二十周年を迎えたことを記念し、地域史のあゆみを概観するとともに、地域と地域の歴史に関心を持ついただき、地域の将来をともに考えよう、と開かれたものです。

資料展には沖縄協が加盟している二十-fiveの関係機関が参加しました。展示品は各市町村史の説明パネル、刊行物、写真パネルなどで、刊行物の販売も行われました。

竹富町史は波照間島のカツオ漁、由布島から西表島へ農作業に出かける水牛車の海渡り、小浜島の帆立てサバニ等の写真パネルなどを展示し、大きな反響を呼びました。刊行物の販売も好評でした。

琉球王府時代の古文書を購入

「近代」「前近代」編集に活用



購入した古文書の印影本

ルム複製本を、一月末日に購入しました。古文書は、かつて八重山の士族だった石垣市の旧家の家文書で、八重山博物館が収集した史料です。

石垣市四か字には琉球王府時代に士族だった旧家がかなりあり、各家には近世代の基礎資料となる石垣市立八重山博物館所蔵の近世・近代古文書マイクロフィルムによる激しい戦闘がなかったこともあり、比較的に古文書が残っている地域だといわれます。

今回、購入した古文書は竹原家文書十七冊、長嶺家文書三冊、新本家文書十四冊、安村家文書二冊の合計三十六冊です。

古文書のすべてが竹富町に関係する史料ではあります。なかには町史編集にとつて看過できない貴重な文書が数多くあります。

竹原家文書では「八重山島旧記（年末記）」「八重山郡現在戸数人口調」、長嶺家文書では「錦芳氏慶来慶田城の由来記」、新本家文書では「八重山島人頭税賦課台帳」、安村家文書では「申年年貢下米請取帳 上原村」などがそうです。

八重山地域史協議会研修会

— 波照間島で実施 —

「島、村の歴史を訪ねて」をテーマにした八重山地域史協議会（安里碩八代表）の一九九八年度史跡巡見が、昨年十一月二十七日、波照間島で行われました。当 日は大雨に見舞われ、生憎の天気でしたが、島内六ヶ所の遺跡などを回り見聞を深めました。

八地協は一九九七年十二月一日に石垣市史編集室、竹富町史編集室、与那国町史編集委員会事務局の三行政組織で発足しました。波照間島での史跡巡見は、本年度初めての研修会として企画されました。会員八人が参加しました。

史跡巡見は島の歴史、地誌、民俗に詳しい勝連文雄氏（元竹富町議会議員）を講師に迎え、八重山で最古の遺跡である下田原貝塚、十五、六世紀のグスクといわれる下田原城跡、十二世紀から十五世紀頃の集落跡と伝わるマシユク村遺跡などを訪ね歩きました。

竹富町史第十巻資料編

「近代」「前近代」編集要領

◆目的

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」の編集要項に基づき、編集を円滑に進めるため、本要領を作成する。

◆方針

・第十巻編集専門小委員会を中心には資料の収集、調査、収録資料の決定、翻刻、意訳文の作成など、編集にかかる一連の作業を進める。

・近世、近代文書の翻刻は古文書翻刻要項に基づいて行う。

・近世、近代文書の本編への収録については、収録資料要項に基づいて資料の選択を行い、第十巻専門委員会で決定する。

◆体裁

・第十三回町史編集委員会の決定に基づき、「近代」「前近代」を分冊して編集発刊する。

・本編に収録する近世、近代文書は内容を分析して統一事項でグルーピングし、そのなかで年代の古い順序で資料を配列する。

・近世、近代文書は資料説明を十分に行い、歴史資料として利用する人々の便宜に役立てる。

・ビジュアル感覚をもたせるため、可能な限り、写真および挿し絵を数多く取り入れる。

な限り、写真および挿し絵を数多く取り入れる。

段に意訳文を載せる。



唐人墓碑文



小浜島の唐人墓碑



星見様の原文



波照間島人伝書一星見様

竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書翻刻要項

(目的)

・本要項は、古琉球と近世のいわゆる前近代、沖縄県設置から終戦までの近代における、竹富町にかかる古文書編集の作業を円滑に進めるため、翻刻及び口語訳に関する様々な事項を定める。

一、翻刻文書

①近代文書（琉球藩設置、琉球処分から終戦までの文書）

旧沖縄県、八重山島役所、八重山島庁、八重山間切役所、村事務所

八重山村などが発行した行政文書を中心とした古文書。

②前近代文書（琉球処分以前の近世、古琉球における文書）

琉球王府、八重山蔵元、村番所などが発行した古文書。

二、翻刻ランク

・竹富町を取り扱った古文書は多種多様かつ多岐にわたるため、古文書の種類に応じて順位づける。

A 竹富町固有の資料

1、竹富町にあった文書で、内容が

地域の固有の問題を扱った文書。

2、石垣市その他地域の文書で、内容全体が竹富町地域のことを取り扱った文書。

3、竹富町にあった文書で八重山・沖縄全体にかかる問題を扱って

いるが、他にはない文書。

4、竹富町にあった文書で、八重山・

沖縄全体にかかる問題を扱って
いるが、竹富町にその文書がある
意味を位置づけることができる

文書。

B 竹富町地域の資料が含まれる文書。

- 直接竹富町地域を扱っていないが、竹富町へも影響したであろう文書。
 - 八重山地域レベルから。
 - 沖縄地域レベルから。
 - 日本および世界から。
- 部分的に竹富町地域の資料が含まれている文書。

三、翻刻者

・近代、前近代の古文書の解説に関して編集委員を含めた研究者を選任する。

・古文書の翻刻と合わせて口語訳も行う。

・原稿は手書きかワープロ字にて町史編集室に提出する。ワープロ原稿は、フロッピーも合わせて提出する。

・町史編集室と密接な連携を保ち、翻刻作業を円滑に進める。

1、西里喜行（琉球大学）

2、里井洋一（琉球大学）

3、中鉢良護（名護市史）

4、平良勝保（城辺町史編集委員会）

5、里井宏美

6、豊見山和行（琉球大学）
7、小野まさ子（県立公文書館県史
料編集室）

8、得能壽美（角川文化振興財団）
9、波名城泰雄（前石垣市立八重山
博物館館長）

10、その他研究者

四、翻刻料（筆耕料）

・筆耕料は翻刻料及び口語訳料を、それ
ぞれ四〇〇字詰め原稿用紙一枚に付き
二〇〇〇円とする。

・支払いについては、翻刻者から見積書
を徴収し、請書（案）を作成して文書を
起案、そして決裁を得る。その後、正
式なる請書を作り、翻刻文が届いたこ
とを確認し、支出負担行為決議書の決
裁を受ける。併行して検査調書も作成
する。これらの一連の手続きを経た後
翻刻者から請求書を取り寄せ、支出命
令書に添付して決裁を得て翻刻料を支
払う。

・支払い方法は、翻刻者の銀行預金口座
への振込みを建て前とする。

竹富町第10巻資料編 「近代」翻刻古文書

No	資料名	年	旧家文書	所蔵機関	ランク	資料枚数	原稿枚数	翻刻枚数	筆耕者
1	必要書(崎原當貴)	1897	崎原家	南嶺民俗資料館	A 1	133	154	58	里井洋一
2	必要書類集(崎原當整) —新城村頭・竹富村頭—	1894	宮良殿内文書	琉球大学附属図書館	A 2	200			里井宏美
3	子孫4江分新住明之間地譲(板証文)	1887	大嵩家文書	大嵩家(小浜)	A 1	1	1・5	1	波名城泰雄
4	人頭税領取証綴他	1888	喜宝院蒐集館文書	上勢頭家(竹富)	A 1	160			里井洋一
5	報告書	1882	喜宝院蒐集館文書	上勢頭家(竹富)	A 1	173			得能壽美
6	間切島会ニ開スル書類一	1888	喜宝院蒐集館文書	上勢頭家(竹富)	A 1	137			里井洋一
7	間切島会ニ開スル書類二	1898	喜宝院蒐集館文書	上勢頭家(竹富)	A 1	219			里井洋一
8	竹富村日誌	1904	喜宝院蒐集館文書	上勢頭家(竹富)	A 1	200			得能壽美
9	田地証文五種類(板証文)	1896	寄合家文書	石垣市立八重山博物館	A 2	5	7・5	3	波名城泰雄
10	西表島地誌一班		梅宮茂家文書	石垣市立八重山博物館	B 1	10			三木健
11	開墾之義ニ付願	1891	宮良殿内文書	琉球大学附属図書館	B 1	4			西里喜行
12	手薄書類綴 一場間小・竹富小・黒島小・新城小・ 小浜小・西表小・波照間小沿革誌一	1908	喜合場家文書	石垣市立図書館	B 1	139			登野原武
13	届達報告綴(学事年報ノ部)	1880	喜合場家文書	石垣市立図書館	B 1	186			石垣久雄
14	届達報告綴(学事年報ノ部)	1879	喜合場家文書	石垣市立図書館	B 1	295			石垣久雄
15	八重山管内間切島巡檢統 計誌一場間村・仲間村一			石垣市立八重山博物館	B 1	78			事務局
16	手形一場間村印真・鹿嶋等の年頭附形	1883		沖縄県立博物館	A 2	1			事務局
17	手形一場間村の貯米課税を定めた手形	1883		沖縄県立博物館	A 2	1			事務局
18	西表炭坑等(明治16~昭和20)		官報	琉球大学附属図書館	B 2				事務局
19	琉球八重山取調書	1894	筆森儀助	石垣市史編集室	B 1	229			西里喜行
20	琉球八重山取調書 付録	1894	筆森儀助	石垣市史編集室	B 1	129			西里喜行
21	国民学校等学校資料		竹富小学校文書	竹富小学校	A 1				阿佐伊孫良
22	庶務書類綴 上巻	1893	喜合場家文書	石垣市立図書館	B 2	77			阿佐伊孫良
23	庶務書類綴 下巻	1894	喜合場家文書	石垣市立図書館	B 2	154			登野原武
24	波照間村事務所鳥狩通達綴	1904		沖国大南島文化研究所	A 2	255			
25	八重山島風土病調査書	1892	我如古楽一郎	石垣市立図書館	B 2	30			
26	沖縄縣下八重山群島急務意見目録		田代安定	琉球大学附属図書館	B 2	30			
27	八重山島物産繁殖之目録 (萬年会報告書)	1886	田代安定		B 2	202			
	—明治19年10月~昭和20年8月—	1887							

*所蔵機関が収蔵している資料は原本あるいはマイクロ複製本です。

竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書収録要項

べき史資料の優先順位を決める。

- ① Aランクの史資料は直接、竹富町にかかるため絶対的に収める。

竹富島喜宝院蒐集館文書（近代）必

要書（近代）波照間村事務所島庁通

達綴（近代）など。

想される。このような古文書の取り扱いについては内容を吟味し第
十巻専門小委員会で検討する。

（目的）

- ・本要項は、多種多様にある「近代」「近世」の古文書等の中から、本巻に収録すべき史資料を決める際の一定の枠組みを示すものである。

二、収録史資料のランク付け

・竹富町にかかる史資料は多種多様かつ多岐にわたるため、古文書等の内容を吟味してランク付けをする。（古文

書翻刻要項を参照）
①Aランク（重要）
竹富町固有の史資料。

②Bランク（やや重要）
竹富町地域の史資料が含まれる文書。

③Cランク（検討）
竹富町地域を直接、扱っていないが

※古文書によっては内容は前近代を対象にしているが、発行されたのは近代であるとか、明確に近代文書、前近代文書と決めにくく、線引きできない文書があることも予

①近代文書

琉球藩設置、琉球処分（沖縄県創設）

から終戦までに至る行政文書を中心とした竹富町にかかる古文書。

②前近代文書

琉球处分以前の近世、いわゆる古琉球における竹富町に関係する古文書。

※古文書によっては内容は前近代を対象にしているが、発行されたのは近代であるとか、明確に近代文書、前近代文書と決めにくく、線

三、収録すべき史資料

- ・史資料のランク付けに基づき、収録す

例…慶来慶田城由来記、八重山

島年來記、宮古八重山島兩

島絵図帳、參遣状など

※琉球処分とのかかわりで生じた

分島問題の外交資料は翻刻すべき資料ではないが、収録する必

要があるのでないか。

四、翻刻すべき文書だが、本巻に收める

ことができず、未収録となつた資料の取り扱いをどうするのか。

・史料叢書の形式をとり発刊する方向で考慮する。



喜舍場家文書の參遣状

竹富町第10巻資料編 「前近代」 翻刻古文書(案)

順	資料名	年	旧家文書	所蔵機関	ランク	販売者	販売額	著者	摘要
27	八重山島由来記(地誌)	1883	竹原家文書	石垣市立図書館	B2	67		著者未記	A. 情記3
28	八重山島由来記(年表記)		竹原家文書	石垣市立図書館	B2	104			
29	八重山島由来記		あ伊家文書	石垣市立図書館	B2	38		著者未記	A. 文記2
30	八重山島大河内由来記	IBC初			C1				南島一樹
31	八重山島由来記(八重山島狂歌)	IBC初			C1				南島一樹
32	八重山島年來記		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	B2				県史前1
33	八重山島諸島帳	1874	並合嶋姑母家	青森県立 弘前市立 石垣市立 八重山博物館	B2				A. 文化5
34	北木山風水記	1864	疋田家文書		B1	307			
35	八重山島大島母母由来之事 (八重山島大島母由来記)	IBC初	安村家文書	石垣市立 八重山博物館	C1	26		著者未記	A. 情記2
36	八重山島年代記		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	B2	68			
37	永年經合帳		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	B2			著者未記	
38	參遣状		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	C2				
39	荷子形手		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	C2				
40	珊瑚				C2				角川書店
41	宮古八重山島西島船帳	1647			B2				業史記1
42	八重山島諸島汽船集	1749	喜合嶋家文書	石垣市立図書館	C1				
43	八重山島通帳	1875	喜合嶋家文書	石垣市立図書館	C1				A. 文化4
44	八重山島々由来記	1890	芳賀殿内文書	琉球大学 附属図書館	B1				
45	鹿児島由来開拓板古文書	1824	團原家文書	團原家(小浜)	A1				
46	那良島由来開拓板古文書	1824	團原家文書	團原家(小浜)	A1				
47	小浜由来開拓板古文書	1824	小浜家文書	小浜家(小浜)	A1				
48	三難橋碑文(古見)	1715			A1				金石文
49	大枝橋碑文(古見)	1715			A1				金石文
50	牛筋田橋碑文(祖納)	1718			A1				金石文
51	唐人墓碑文(小浜)	1777			A1				金石文
52	舊古田開拓文(古見)		宮良殿内文書	琉球大学 附属図書館	C1				
53	八日記		宮良殿内文書	琉球大学 附属図書館	C1				
54	明治二十二年度、貧農米產 比率二度大賀半開拓作業 五度夫賀二度取引帳		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	C1				

順	資料名	年	旧家文書	所蔵機関	ランク	販売者	販売額	著者	摘要
1	波計島事之次第		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	B1			34	寺林良慶
2	波計島開闢令合併 波計島町合併在中江申渡 令後		安村家文書	石垣市立図書館	B1	14		6	道名屋謹
3	波計島(板文稿)	1876	高郡家文書	高郡家	A1	1		1	源行承轉
4	上野日記分二冊 A.4書 (通簡)		宮良殿内文書	琉球大学 附属図書館	B1	89			
5	慶茅慶日城由来記	1815	宮良殿定文書	石垣市立 八重山博物館	A1	72			市史前1
6	鍋芳美系家譜大室		宮良殿定文書	石垣市立 八重山博物館	A1	68			
7	御書一西渡村一		宮良殿定文書	石垣市立 八重山博物館	A1	7			
8	大島慶生開拓申人由		宮良殿定文書	石垣市立 八重山博物館	A1	15			
9	波計島開拓星見録		御宮茂文書	石垣市立 八重山博物館	A1	16			
10	八重山島諸島公事帳 —古見村番所一 —竹富村番所一	1874	ショーナ・カー —古見村番所一 —竹富村番所一	石垣市立 八重山博物館	C1	176			県史前7
11	八重山島人頭税開拓白帳 —古見一小、二、三、大、井 平西、島、上地、下尾一		新本家文書	石垣市立図書館	B1	25			
12	時年キ真羅屋下木筆取帳 (上原村)		安村家文書	石垣市立図書館	A2	11			
13	時年キ真羅屋木筆取帳 (上原村)		安村家文書	石垣市立図書館	A2	6			
14	時年キ真羅屋木筆取帳 (上原村)		安村家文書	石垣市立図書館	A2	9			
15	時年キ納米津請取帳 (上原村)		安村家文書	石垣市立図書館	A2	16			
16	中野津用物料料呑牛荷 目白牛馬布活手登堂物 請取帳(上原村)		安村家文書	石垣市立図書館	A2	9			
17	申年三度夫過上米並所 通所ノ分派上管音請取 (上原村)		安村家文書	石垣市立図書館	A2	7			
18	切支丹宗門名音印洋帳		宮良殿内文書	石垣市立図書館	B1	207			
19	呈文卷之二 五地		喜空坂葉集文書	上野家	A1	116			那覇古文
20	大嶽圖歌次第		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	B1	80			市史前12
21	大武之時各村行帳		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	B1	65			市史前12
22	各村2百戸人口總帳及其 別冊		喜合嶋家文書	石垣市立図書館	B1	67			
23	千立老母女平常可憐者		眞原家文書	石垣市立 八重山博物館	A1	19			里井洋一 地域と文化
24	那良島體記	1477	季朝叟		B1				わが沖縄
25	那良島自來記 卷21	1713			B1				書員
26	八重山島由来記		竹原家文書		B1				南島一樹

※所蔵機関が收藏している資料は、原本あるいはマイクロ複製本です。

竹富町史第十一卷資料編

「新聞集成IV・V」編集要項

◇自由民報

する形で復刊した。だが、一九七〇年（同四五）に再び廃刊となつた。

・一九四八年（昭和二三）七月二十四日
崎山信邦を編集人に創刊した。翌

◇南琉タイムス（八重山タイムス、八重山新聞）

・一九四六年（昭和二二）五月六日、

八重山支庁の機関紙として創刊。

同年八月に八重山タイムスと改題。

しかし、一九五〇年（同二五）四月

十日、再び南琉タイムスと改題し

先島一円に普及に乗り出したが、

その後、八重山タイムスに。一九

六五年（同四〇）四月一〇日に八

重山新聞と改題したが、一九六七

◇八重山新報

・一九五五年（昭和三〇）四月六日

に吉野高善を社長、崎原當弘を編

集人として創刊。しかし、一九五

八年（同三三）には廃刊した。

◇八重山朝日新聞（南西新報）

・一九五二年（昭和二七）七月二五日

屋部憲一が社長に就任、日刊紙と

して創刊。一九六七年（同四二）

・「竹富町史第十一卷 資料編 新聞集成」の編集要項に基づき、八重山で昭和二十一年（戦後スタート）から同四十七年（本土復帰）までに発刊された新聞の記事を精選し、収録する「新聞集成」を明治、大正、昭和戦前編（I、II、III）に引き続き、昭和戦後編（IV、V）と位置づけて発刊する。

一、新聞

◇海南時報

・一九三五年（昭和一〇）八月八日

社長に浦添為貴、主筆に大浜用立

大浜晴美等によつて創刊。終戦直

前、直後に一時休刊を余儀なくさ
れたが、一九四六年（昭和二二）一
月二十三日には再刊を果たした。

しかし、一九五九年（昭和三四）末
に廃刊した。

◇南西新報

・一九四七年（昭和二二）九月二六日

富川盛正を編集人に創刊。一九四

九年（同二四）九月、佐久本勝五に

引き継いだが、一九五三年（同二

八）廃刊した。しかし、一九六七

年（同四二）八重山朝日新聞を継承

して創刊。一九六七年（同四二）

十月一日、南西新報と改題して再スタートを切った。しかし、一九七〇年（同四五）九月三〇日、廃刊となつた。

◇八重山時報

・一九六九年（昭和四四）七月一六日創刊した。しかし、同年末、廃刊した。

を送付し、印字作業への着手を指示。併せて町史編集室では新聞記事の全体像を紹介する総説、五年単位の年次解説などの原稿の依頼、執筆、さらに略年表の作成に入る。この作業と併行して記事原稿の校正を行う。

発刊に向けての編集作業は、校正を終え、最後に索引を作成して、凡その業務を完了することになる。

◇卷頭

・とびら　・口絵　・発刊のことば
・発刊によせて　・凡例　・全体目次

次　・収録記事目次

◇本編

・総説　・年次解説　・収録記事

◇巻末

・竹富町関係不採用記事目録
・昭和戦後の竹富町関係略年表

・事項別索引　・編集後記

・その他

・奥付

・八重山時報　.....一六四件

・合計　約一〇、九九三件

※収録記事数は取捨選択するため上争入札で落札した印刷業者に記事原稿

記の記事総数より減る。

四、編集構成

・新聞記事は精選したうえで、「新聞集成 I、II、III」と同様、事象別でなく、「新聞集成 IV、V」と題し、編年体で配列する。

二、編集作業

・新聞記事の検索については、現在、海南時報、南琉タイムス（八重山タイムス、八重山新聞）、南西新報、自由民報、八重山新報、八重山朝日新聞（南西新報）、八重山時報の各紙を終えた。以後、南琉日日新聞（八重山毎日新聞）一紙だけで作業を進めていたが、それも、昭和四十七年まで終了した。

記事検索作業の後は、収録記事の選択作業に取りかかる。この作業は「新聞集成 I、II、III」の時と同様、第一巻専門小委員会で記事の取捨選択を行なう。収録する記事が決定すると、競

・八重山時報　.....一六四件

・合計　約一〇、九九三件

※収録記事数は取捨選択するため上

『古文書紹介』

開墾之義二付願

御轄内西表島南風見仲間地方ハ原野広漠ナルモ人口僅少ナル為
メ荒蕪に属し仕候ハ甚タ遺憾之義ニ之候間私奮發いたし瘴癘地
ヲ厭ハス実業ニ從事致度ト存候間別紙之原野開墾御認可被下度
果テ御認可之上ハ開墾ニ関スル御制規等ハ確守可致候間願意御
採用被下度此段奉願候也

明治廿四年六月廿三日

本籍東京牛込区御神町十九番地

當時八重山島石垣間切石垣村九
十一番地

寄留

塙 忠雄

八重山島役所長 伊王野義介殿

石垣間切

塙 忠雄

八重山島役所長 伊王野長演

明治廿四年二月廿五日

宮良長演

開墾請願ノ原地

一原野

但南風見村之ウチ

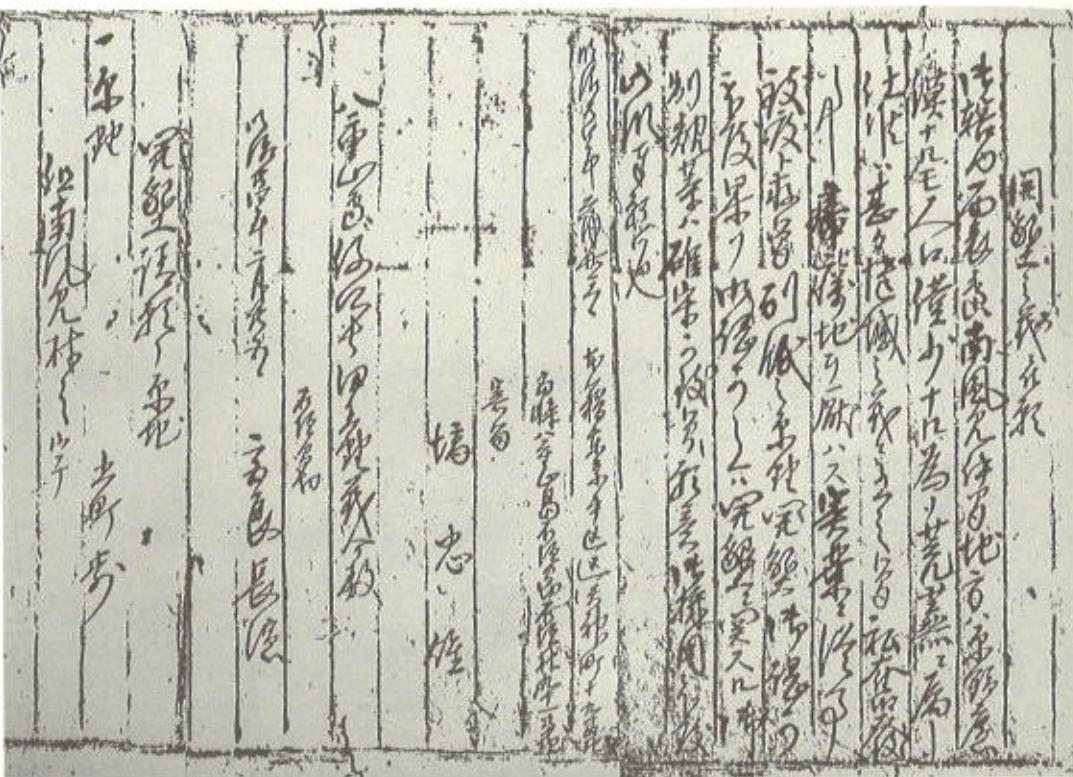
五町歩

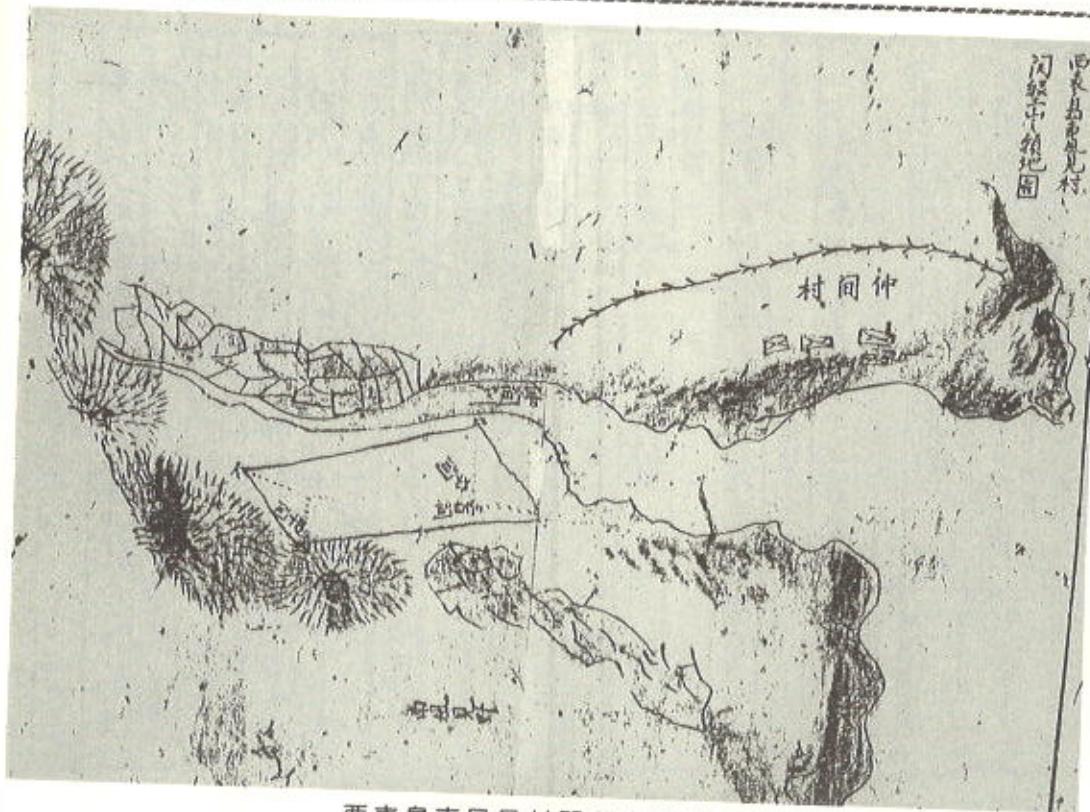
元野 伊王野 長演

但南風見村之ウチ

古墳石面及南風見仲間地方ハ原野広漠ナルモ人口僅少ナル為
メ荒蕪に属し仕候ハ甚タ遺憾之義ニ之候間私奮發いたし瘴癘地
ヲ厭ハス実業ニ從事致度ト存候間別紙之原野開墾御認可被下度
果テ御認可之上ハ開墾ニ関スル御制規等ハ確守可致候間願意御
採用被下度此段奉願候也

「開墾之義二付願」原文





西表島南風見村開墾古之領地図

【解説】

西表島東部に琉球王時代から明治後期まで存立していた仲間村の土地を、石垣間切石垣村の寄留民だった塙忠雄が八重山島役所に対して開墾を申し出た公文書である。

開墾申請者の塙忠雄は、江戸時代の著名な学者・塙保己一の曾孫にあたる。彼は一八八四年（明治一七）に農商務省に勤務し、一八八八年（同二二）に沖縄県属になり、一八九〇年（同二三）には八重山島役所に赴任した。八重山島役所に在職中は、所轄内の漁民の保護や、風土病対策と殖産事業の振興に力を注いだ。しかし、同年十二月に辞職した。

その後、八重山諸島の開墾と製糖業の準備に着手する一方、木材伐採事業、獸骨化製業などの事業に取り組むが、いずれも経営不振や計画のまま終業した。そして、一八九六年（同二七）には帰京した。彼は温故学会を創設し、明治中期の八重山の各村の古地図を所蔵していた。古地図は現在でも残っている。

塙は開墾の申請について、仲間地方は原野が広がり人口が少なく疲弊しているにもかかわらず、実業を起こすとしている。彼の申請は認可され、開墾が行われたのかは定かではない。

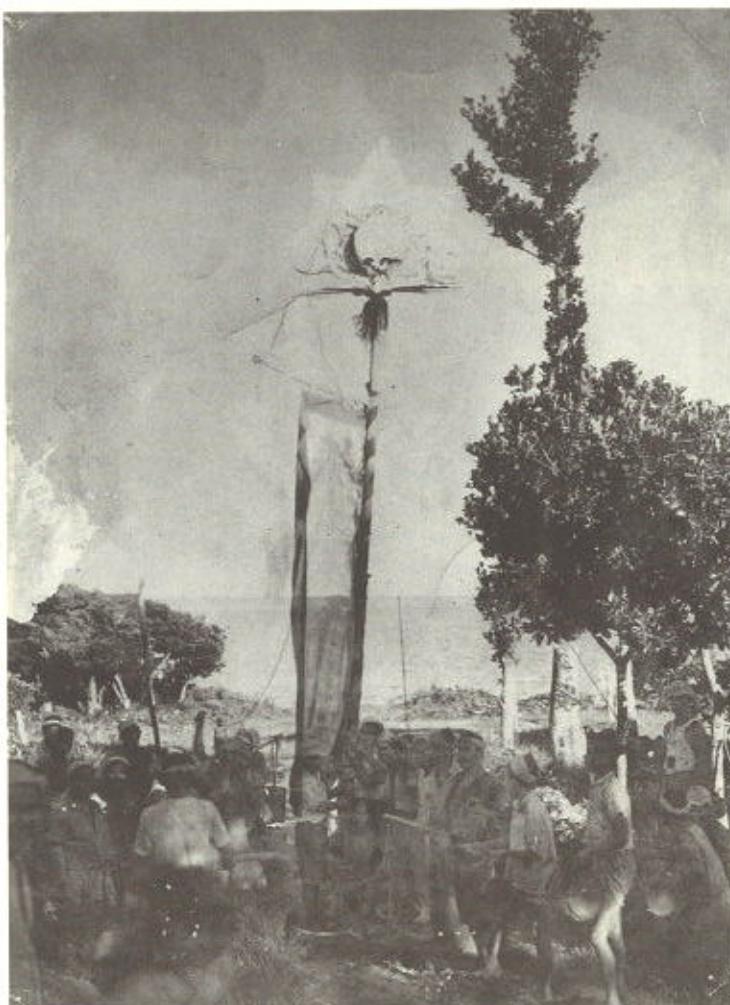
仲間村は古い村落だが、笠森儀助が訪れた一八九三年（同二六）に「土地ノ湿润ト臭氣ハ、一見人ヲシテ悚然タラシム」と『南島探験』に記し、村の滅亡を予期している。村は当時、戸数四世帯、人口九人で一五歳以下はいなかつた。一九〇四年（同三七）には住民は他所へ移住し、姿を消した。一九〇八年（同四二）に八重山村が誕生し、同村の小字となつた。

古見の十五夜綱引き

西表島東部にある古見は歴史が古く、由緒ある集落で知られる。古文書を繙くと集落一帯の最高統治者で

ある古見首里大屋子が配置され、八重山における行政の中心だったことが分かる。

村落祭祀はアカマタ・クロマタ・シロマ



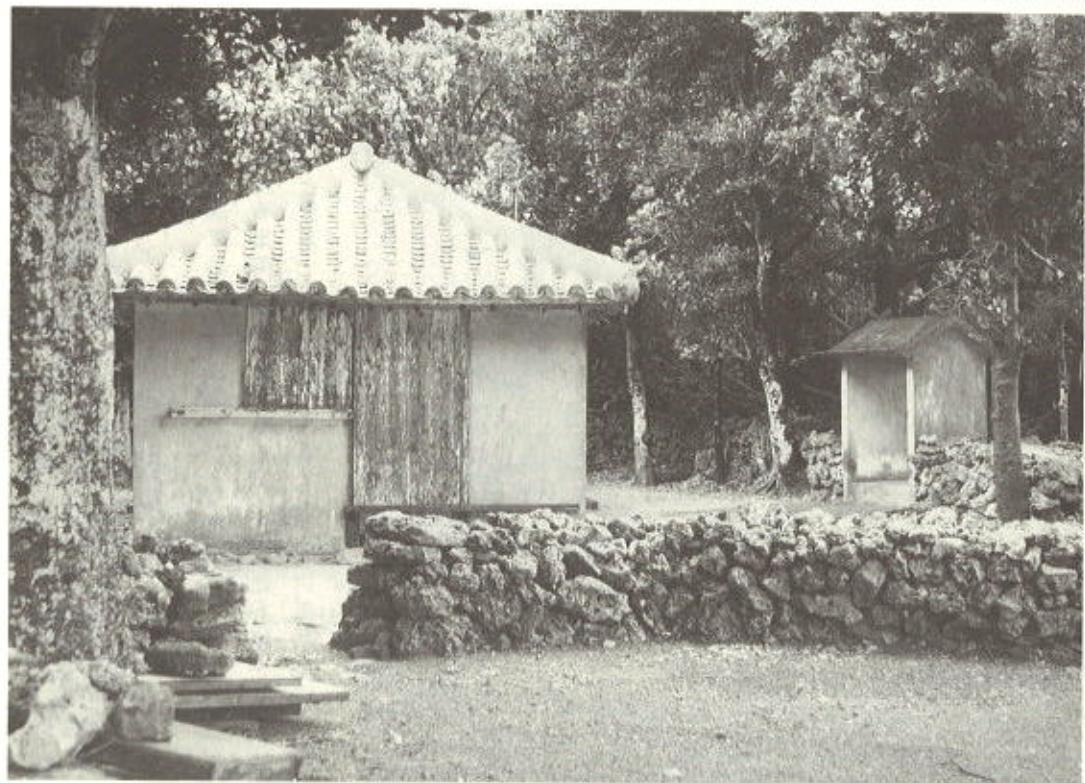
村人が大勢繰り出して盛り上がった綱引き

タが登場する「豊年祭」が脈々と継承され、神秘的で、知る人も多い。村落には古くから数多くの祭祀があり、村人は神に祈りを捧げていた。旧盆の旧暦七月十六日には獅子舞とアンガマが演じられ、豊かな民俗芸能が住民の心の支えになっていた。

村の祭祀のひとつに十五夜綱引きがあり、地域を挙げてにぎわった。綱引きは雌雄二本の綱の結合によって五穀豊穫を予祝し、勝負の結果で豊凶を占う民俗行事として県内各地に残る。

八重山では「豊年祭」の時、夕闇が迫る頃に、東西あるいは南北に分かれて沿道に松明をかざして催されるのが普通である。汗だくなつて懸命に綱を引き合いう光景は圧巻である。

古見の十五夜綱引きは、本土復帰前まで行われていたが、今では過疎化によつて姿を消した。かつて行われていた村の綱引きは集落の中心地、ナカミチで南北に長く雄綱、雌綱を合体させて盛り上がり立つた。旗頭は日の出を象つた「朝日頭」が立ち、祭祀は村人で熱気に包まれた。



波照間島で最も神高い阿底御嶽

《聖地めぐり》

阿底御嶽

沖縄県の数ある島々のなかで波照間島は、知念半島の沖合に浮かぶ久高島と同様に「神の島」などと呼ばれるが、島には年中の神行事が五十種類ほどある。神行事の時、中心地になるのが御嶽である。御嶽は島に十カ所以上ある。

波照間島の御嶽の特徴は、ビテヌワー（野原の御嶽）とウツヌワー（村落内の御嶽）と呼ばれる、性格の異なる二種類の聖地があることである。両御嶽は密接につながっており、ウツヌワーはビテヌワーの遙拝御嶽になっていて、神行事はほとんどウツヌワーで行われる。ビテヌワーは普段は入域禁制になつており、村人が気軽に入れるのは年三回のミヨークチエに限られている。その時には神司は祈りを捧げ、村人は嶽城を清掃する。阿底御嶽（アースクワー）はウチヌワーのひとつで、ビテヌワーの真徳利御嶽の遙拝御嶽になつていて。真徳利御嶽はオヤケアカハチの乱（一五〇〇年）に絡んで、アカハチの手下に殺害された明宇底獅子嘉殿の長男である、アコ与人が拝み始めたといわれる。『琉球国由来記』卷二十一に、その記述がある。

阿底御嶽は富嘉部落にある。トゥニムトゥは保多盛家で、同家は御嶽の中に構える。神司は保多盛家の家筋から生まれておらず、現在、西島本千代さんが要職にある。神司は西島本さんから七代前まで遡ることができる。

鳩間中森

西表島の北方に浮かぶ鳩間島は、山も川もない平坦な島で、いわゆる「ヌング島」である。島の中央は丘陵地になっていて、そこが標高三三・八メートルの島でもつとも高い中森と呼ばれる場所である。島

の民謡「鳩間節」に「美しい萌いだる丘ぬ蒲葵、清らさ列りだる頂ぬ蒲葵」（宮良當壯）と謡われ、森の絶景をたたえていた。しかし、今ではその面影は残っていない。明治中後期の土地整理によって蒲葵は切り倒されたといわれる。

沖縄の民俗信仰の中で蒲葵（クバ）は神木であり、御嶽の自然林の中に見受けられることが多い。『琉球国由来記』に記載されている御嶽の中で約一割が蒲葵を樹名、また



記念物 鳩間中森

口入りの中森の鳥の中核をなす中森だが、民俗信仰の側面だけにとどまらず、歴史的にも重要な史跡である。一九五六年（昭和三二）に中森貝塚として発掘調査が実施されたが、その時、土器、骨器、鉄器などが検出された。その結果、鉄器使用の段階に移行していることから八重山考古学編年第三期（十三世紀～十六世紀）の遺跡と推定された。

鳩間中森には島の周辺海域を航行する船舶の「命綱」として灯台が古くから建設された。現在は最新技術を駆使した近代的な灯台が沖行く船に光を照らす。

丘陵を覆う中森は、神が海の彼方から依り着く目標の場所であったのだろうか。

聖地としての中森は、海いく船の目標であった。琉球王府時代には沖縄本島から中国へ通った船などは、すべて蒲葵の森を海上から眺めて、船の位置と進路を確かめたのである。その時、蒲葵の森影を海上から探し、航海安全を祈ったにちがいない。頂上には遠見台としての石積みの施設があるが、かつて通信施設として情報伝達の烽火が焚かれた。

島の中核をなす中森だが、民俗信仰の側面だけにとどまらず、歴史的にも重要な史跡である。一九五六年（昭和三二）に中森貝塚として発掘調査が実施されたが、その時、土器、骨器、鉄器などが検出された。その結果、鉄器使用の段階に移行していることから八重山考古学編年第三期（十三世紀～十六世紀）の遺跡と推定された。

鳩間中森には島の周辺海域を航行する船舶の「命綱」として灯台が古くから建設された。現在は最新技術を駆使した近代的な灯台が沖行く船に光を照らす。

『新聞で知る町の今昔』

西表島森林での米軍演習

米軍は太平洋戦争の後、沖縄を占領して二十七年間にわたり統治し続け、沖縄本島で様々な演習を繰り広げた（現在も

西表島森林での米軍演習	西表島森林での米軍演習	西表島森林での米軍演習
西表島森林での米軍演習	西表島森林での米軍演習	西表島森林での米軍演習

八重山毎日新聞（昭和38年2月3日付紙面）

理解と親善を深め

甘鄰而寒米味親善委員会結成

理解と親善を深め	理解と親善を深め	理解と親善を深め
理解と親善を深め	理解と親善を深め	理解と親善を深め

八重山朝日新聞（昭和39年2月16日付紙面）

東支店長が「キャラウエイ高等弁務官が三月十五日に来郡し、三月二十四日から五月十八まで五〇三空挺隊が西表高名地区で演習を行う」と語っている。

八重山タイムスにもほぼ同様の記事があり、演習の内容はジャンクル訓練、自活行動、パトロール活動、偵察、奇襲などと綴っている。記事の中で注目されるのは、演習の期間中、部隊が西表島の子供たちに玩具類を贈る、としていることである。これは地域住民を慰撫懐柔するアメ作戦。であろうか。

米軍演習は一九六四年（昭和三九）には第一七三空挺部隊に替わったことが記事で知ることができる。八重山朝日新聞の一連の報道をみると、米軍は演習にとどまらず地域の住民福祉にも尽力していることが分かる。紙面には古見から由布までの道路を補修をして住民から喜ばれている記事もある。また地域住民と親睦交流を図ることにも力を注いでいるよう

続いている）が、一九六三年（昭和三八）から一九六四年（同三九）にかけて、西表島東部でも演習を行ったことが当時の新聞から窺い知ることができる。

八重山毎日新聞（昭和三八年二月一日付紙面）をみると、「西表高名（高那の誤り）で演習 五〇三空挺隊」との主見出しが踊る。記事には八重山支厅の

収蔵図書紹介

多数の個人、関係機関等から寄贈を受けております。

受贈図書紹介

あわせてお礼申し上げます。

寄贈者御芳名	受贈図書名	竹富町議会	仲里村史編集委員会	全国竹富島文化協会
沖縄県公文書館	沖縄県公文書館研究紀要 創刊号	石垣市史編集室	仲里村史第二巻 資料編Ⅰ	沖縄県竹富島の種取祭台本集「芸能の原風景」
豊見城村役場	豊見城村史第九巻 文献資料編	石垣島 村むら探訪	平成十年竹富町議会会議録（第一回・二回）	
沖縄地区税関	沖縄地区税関二十年史	石垣市史叢書12	竹富町議会	
桜井信夫	ハテルマシキナ	那覇市総務部女性室	仲里村史編集委員会	
沖縄国際大学南島文化研究所	地域研究シリーズNo.3 波照間島調査報告書	那覇女性史（近代編）なは・女のあしあと	仲里村史第二巻 資料編Ⅰ	
南島文化 第19号	那覇市文化振興会	歴代宝案 訳注本第二冊（第一集巻23-43）	平成十年竹富町議会会議録（第一回・二回）	
地域研究シリーズNo.24 宮古平良市調査報告書(2)	那覇市文化局歴史資料室	歴史資料室だより 第48号	竹富町議会	
崎原當弘	那覇市企画部文化振興課	那覇市戦後50周年記念展	仲里村史編集委員会	
沖縄・石垣島断面史—奇抜の人と呼ばれて	那覇市史 資料編第一巻四 歴代宝案第一集抄		仲里村史第二巻 資料編Ⅰ	

那覇市企画部市史編集室

那覇市史 資料編第一巻八 家譜資料四

那覇市経済文化部歴史資料
「近世那覇関係資料・琉球資料漢文編」

那覇市史資料篇第1巻9
「近世那覇関係資料・琉球資料漢文編」

那覇市企画部文化振興課

那覇市史 資料編第三巻一 戦後の都市建設

琉球大学八重山芸能
研究会 リュウキュウダガハチヨウサンイネイノケンゲン

八重山芸能発表会プログラム集I
II

那覇市企画部市史編集室

那覇市史 資料編第三巻四 戦後新聞集成二

平井順光写真集発刊委員会

一期一会 六十年間で出会った人々

(財)沖縄県文化振興会公文
書館管理部史料編集室

沖縄戦研究 I

読谷村立歴史民俗資料館

大木・牧原・長田の民話

〃

〃

沖縄県女性史研究 創刊号

〃

読谷村立歴史民俗資料館「紀要」第22号
「年報」第23号

沖縄県立芸術大学 大学院
芸術文化学研究科

沖縄から芸術を考える
石垣島スクーターヨシタ

青井志津

石垣島スクーターヨシタ

砂川哲雄

環礁 第6号

具志川市史編さん室

具志川市史だより 第13号

南風原町文化センター

第2回戦争遺跡保存全国シンポジウム

購入図書紹介

多数の書籍を購入していますが、紙面の都合上その一部を紹介します。

						著者名			
						図書名			
						発行所名			
毎日新聞特別報道部出材班	仲村渠理	安仁屋政昭	琉球新報社	安里要江・大城将保	丸杉孝之助				琉球新報社
沖縄・戦争マラリア事件	証言 沖縄戦—戦禍を掘る	沖縄戦再体験	沖縄・学童たちの疎開	沖縄戦・ある母の記録 —西表島に住んで—		11月号	10月号	9月号	琉球新報縮刷版 1997年8月号
東方出版	琉球新報社	平和文化	琉球新報社	(株)高文研	古今書院	琉球新報社	琉球新報社	琉球新報社	琉球新報社

業務日誌

けて資料検討。

九月二五日

- ・竹富町史第十巻資料編「近代」収録史料目録の作成。

九月二九日

- ・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」古文書翻刻要項作成。

九月四日

- ・行政文書分類整理編纂業務委託契約をした南山舎が同業務作業完了。

九月七日

- ・波照間島ヘムシャーマの写真撮影のため一泊二日出張（職員一人）。

九月七日

- ・網取関係行政資料（昭和三八年）同四六年までの町役場と網取区長との往復文書の整理作業に着手。

九月九日

- ・波照間島関係の昭和四二年頃のモノクロ写真を複写。

九月九日

- ・町史編集室定例会議、九月の業務予定検討。

九月一四日

- ・「近代」「前近代」古文書の資料点検。

九月一八日

- ・本土復帰前の八重山地元新聞の記事探索整理。
- ・町史編集室定例会議、九月の業務予定検討。

九月二一日

- ・町史だより一四号の印刷製本請負契約を八島印刷と締結。

九月二七日

- ・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」専門小委員会に向

・近世、近代文書（家譜資料など）収集のため、小浜島へ日帰

り出張（職員一人）。

一〇月二八日

・「官報」掲載の竹富町関係記事の検索開始。

一〇月二九日

・喜舎場家所蔵の近世・近代文書の調査。

・町制施行五〇周年記念事業の稚魚放流式への参加、放流式写真撮影のため、小浜島へ日帰り出張（職員一人）。

一一月二日

・町史編集室定例会議、一月の業務予定検討。

一一月四日

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」専門小委員会開催の通知書発送。

一一月五日

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」専門小委員会に使用する資料作成。

一一月一〇日

・第二回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会および研修会参加、那覇市へ三泊四日出張（職員一人）一三日まで。

一一月一八日

・竹富町史第十巻資料編「近代」「前近代」専門小委員会開催古文書翻刻要項等を検討。

一一月二〇日

・町史編集室臨時会議、八重山地域史協議会の波照間島史跡巡

見に向けて実施事項を確認。

一一月二四日

・八重山地域史協議会の波照間島史跡巡見に向けての資料作成。

・沖縄県地域史協議会の第四回地域史まつり資料を那覇市史まで送付。

一一月二七日

・八重山地域史協議会の波照間島史跡巡見実施、石垣市四人、竹富町三人、与那国町一人参加、大雨に見舞われ史跡六ヶ所のみ見学。

一一月二八日

・町制施行五〇周年記念植樹祭の祖納ふるさとの森での開催等の写真撮影のため、祖納へ日帰り出張（職員一人）。

一一月三〇日

・沖縄県地域史協議会設立二〇周年記念式典および第四回地域史まつり（地域史資料展）開催のため、那覇市に二泊三日出張（職員一人）一二月二日まで。

一二月四日

・沖縄県地域史協議会の第四回地域史まつり参加および近代、近世の古文書収集のため那覇市へ二泊三日出張（職員一人）。

一二月七日

・沖縄県立図書館八重山分館で近代、近世の古文書収集。

・近代文書「開墾之義ニ付願」他四点を阿佐伊孫良委員に翻刻依頼。

・近代文書「庶務書類綴」他一点を石垣久雄委員に翻刻依頼。

・近代文書「届進達報告綴」他一点を石垣久雄委員に翻刻依頼。

・近代文書「学務書類綴」を登野原武委員に翻刻依頼。

・近代文書「西表島地誌一班」を三木健委員に翻刻依頼。

一二月九日

・石垣市立八重山博物館所蔵の竹原家文書等のマイクロコピー複製本入手するため、(有)沖縄マイクロセンターほか四業者に見積もり依頼。

一二月九日

・近代文書「人頭税領取証綴」他二点を里井洋一委員に翻刻依頼。

・近代文書「竹富村日誌」他一点を得能壽美氏に翻刻依頼。

・近代文書「必要書類集」を里井宏美氏に翻刻依頼。

一二月一六日

・竹富小学校収藏の同校学校資料借用のため、竹富島へ日帰り出張（職員一人）。

一二月一八日

・石垣市立八重山博物館所蔵古文書（竹原家、長嶺家、新本家、安村家）のマイクロコピー複製本入手のため、(有)沖縄マイクロセンターと印刷製本契約を締結。

一二月二一日

・町史編集室定例会議、一二月の業務予定検討。

一二月二八日

・八重山郷土新聞の上製本契約を沖縄マイクロセンターと締結。

八重山毎日新聞、八重山日報の一九九七年新聞を同社へ送付。

◆一九九九年（平成一一）

一月四日

・町史編集室定例会議、一月の業務予定検討。

・八重山地元紙の戦後新聞記事、探索業務継続。

・鉄田義司日記の原稿印字作業継続。

・「官報」の記事探索作業継続。

一月六日

・第一四回町史編集委員会の審議要項および新城島史跡巡見に向けた資料作成。

一月二〇日

・町史編集室所蔵資料となる書籍を購入するため、(有)榕樹書林へ購入図書のリストおよび見積りを依頼。

一月二十五日

・町史編集室臨時会議、第一四回町史編集委員会に向けた各種資料の点検。

一月三〇日

・第一四回町史編集委員会開催および新城島史跡巡見実施。

二月一日

・石垣市立八重山博物館所蔵の近代、近世文書（竹原家、長嶺家、新本家、安村家）、(有)沖縄マイクロセンターから納本。

・八重山郷土紙の原寸大上製本新聞、(有)沖縄マイクロセンターから納本。

二月二日

・町史編集室資料の購入書籍、(有)榕樹書林と物品売買契約を締結。

編集後記

◆『竹富町史だより』第15号を発刊しました。本号は、第14回編集委員会で決定したことが中心になっております。

編集委員会では西島本町長が編集委員二十人に委嘱状を手渡し、創造性に満ちた町史編集ができるよう協力を求めました。町長の言葉を受けて各編集委員らは、新たな気持ちで編集に携わる決意をしました。

◆委嘱状の交付の後、編集委員会では第十巻資料編「近代」の編集について審議を重ねるとともに、町史発刊計画を見直す形で「新聞集成」について「I・II・III」に引き続き昭和戦後編（本土復帰まで）として「IV・V」を発刊することを決めました。現在、記事の探索は終了しております。町史編集室では、次年度から町史の目玉となる「島じま編」の調査に乗り出します。



平成11年3月31日 発行

竹富町史だより

第15号

編集発行 竹富町史編集室

沖縄県石垣市字大川10番地

☎ 09808-2-9985

印刷 八島印刷